お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

自動車業界で有望といえるのはトヨタとスズキの2社

1. トランプ関税に加え、電動化などの先行投資が重荷となっている自動車業界。そうした中でも、有望といえるのはどの企業なのか。SBI証券のチーフエグゼクティブアナリストは「将来性がクリアになっているのは、トヨタとスズキの2社だ」と解説する。
2. トヨタは自動車販売台数がグループで1000万台超と世界トップに君臨しており、圧倒的な資本力を背景に多様な技術開発を進めている。さながら横綱相撲といった安定感がある。スズキはインドで約40%の高いシェアを有する点が最大の強みだ。さらに、スズキは米国や中国でのシェアをもたない。
3. 反対に、厳しいのがホンダと日産だ。まず、日産の窮状は言わずもがなだろう。ホンダも同様だ。ホンダの四輪事業の課題の一つが「米国依存」だ。足元のトランプ関税を乗り切ることも重要だが、その先を見据えた提携戦略などが、「5年後」の競争力を左右する鍵になりそうだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年7月19日・26日号)

経営者のための社会学

スペインのような国に

1. 今や日本経済の大部分を構成しているのは非製造業である。実は輸出の動向よりも、インバウンド消費のほうが重要であるかもしれないのだ。少子・高齢化が続くこの国において、ものづくりは徐々に競争力を失っていくだろう。そうでなくても最近では、「日本人は働かない」という新たな国際的評価が定着しつつある。働き方改革やコンプライアンス重視によって昭和の働き方はもはや通用しない。それを受け入れたうえで、この国は何を食いぶちとして生き残っていくかである。
2. この国に残る最後の強みとは、つまるところ「グルメとコンテンツ産業」なのではないか。わかりやすく言えば、イタリアやスペインのような、観光産業に依存する国になっていくのであろう。幸いなことに、この国の若者がカリスマシェフや人気漫画家を目指すハードルは低い。どんな場末の不便な店でも、うまいラーメンを出せば客は来る。面白いコンテンツにはファンがつく。いずれも学歴などは不問とされ、腕のいい職人はインテリよりも評価される土壤がある。
3. この国の比較優位は、目利きのお客たちにある。彼らが「押し」をつくって格付けし、情報発信してくれる。

(参考:「週刊東洋経済」2025年6月7日号)

経営者のための危機管理

技能実習生が敬遠する日本企業

1. 造船業界の雄である今治造船は2030年3月まで5年間、技能実習生の受け入れが停止となる処分を受けた。技能実習制度に詳しい専門家は「海外からの批判を考慮して、政府が企業に重い処分を科している」と指摘する。海外の優秀な人材に日本を選んでもらうため、国と企業の両輪で長期就労できる環境の整備が急務である。
2. 出入国在留管理庁と厚生労働省は2025年3月、造船大手の今治造船(愛媛県今治市)に対して、技能実習生の受け入れに必要な実習計画の認定2134件を取り消す処分を下した。一事業者の取り消し件数としては過去最多となる。きっかけは21年に発覚した造船所内のクレーンの点検不備だ。労働案税衛生法違反による罰金刑が確定しており、それが処分の引金となった。
3. こうした処分は19年に、実習計画と異なる業務に携わらせていたとして、パナソニックや三菱自動車も認定取消処分を受けている。技能実習制度は、日本で学んだ技術を母国で生かす「技術移転」を軸とした国際貢献が目的だ。だが実際は人手不足の中で、都合の良い労働力として利用されてきた。

(参考:「日経ビジネス」2025年6月16日号)

古典に学ぶ

神を養う

1. 「下手な考え休むに似たり」という言葉あるように、キーボードを前にもんもんとしているくらいなら、いっそ眠ってしまったほうがいいのです。
2. すると起きたあとに、いいひらめきがふと湧いてくることも少なくありません。自分でも驚くようなアイデアが湧くことを、空海は「神を養う」といっています。(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)